



明日へ

平成22年3月25日発行
児童養護施設 鎌倉児童ホーム
(発行責任者 園長 渡邊優)
〒248-0017
神奈川県鎌倉市佐助1-6-6
電話 0467-22-0424

ごあいさつ

鎌倉児童ホーム園長 渡邊 優

春の息吹が感じられ、いよいよ春の到来かと思っておりましたところ、窓の外は雪(3月9日)、三寒四温の日々が続いておりますが、皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、5年間続いて参りましたトロイカ方式(総括主幹、事務長、園長)で施設運営に当たって参りましたが、4月1日より村岡総括主幹が城山学園施設長として栄進されたことに伴い、当ホームも平成22年度は変革(チェンジ)の年となります。そこで当ホームでは次のようなことを重点項目として取り組んで参ります。

① 3主任4ブロック長体制の確立

主任とブロック長を中心としたケア体制の充実。

② 権利擁護システムの強化(スーパーバイザーの活用)

子どもの権利擁護について職員の意識の向上を図るため。

③ 全体ルールの再積上げ

直近5年間に「みんなのルール(権利責任ノート)、共有ブック(権利擁護ノート)、安全と安全の葉、職務実践の手引き等を項目として定めました。」

次に最近のニュースと致しましては、3月6日(土)に吉例の卒園式を挙行させていただき、高校生の女子2名と男子1名の児童がそれぞれの道に旅立ちをいたしました。この様な社会情勢の厳しい中で将来性のある会社に就職することができました。子ども達には今後も引き続き応援をさせていただき、伝えたいところでもあります。

組織のモットーといたしましては、厳しい執務環境にありますが、「和」を大事にし、一体化を図って参ります。

間もなく迎える新年度が多数の子どもたちが仲間に入ってくれる予定となっております。鎌ホが皆様とお約束させていただいております、「子どもの人権を守り、自立支援」に努め、開かれた施設づくりを目指して職員一同、汗を流して参りますのでよろしくごお願い申し上げます。



みんなでステキな鎌ホを目指しています！



夕方のサッカーの活動を通して

ケア担当

川島稔

鎌ホの子ども達との生活には喜怒哀楽のすべてがありますが、サッカーもその一つです。



大きい子も小さい子も

男の子も女の子も

ちょっと前まで怒られていた子も

眠そうにしている子も

ハイテンションで暴れている子も



みんなでわいわい・がやがやとサッカーをやっています。

ボールを必死で追いかけている子ども達は、普段の勉強などの時には垣間見ることのできない表情をしています。試合に負けてくるといじけたり、ゴールを決めて雄叫びをあげたり、勝った時に一緒に抱き合ったり・・・。

近頃、子どもの遊びやしつけが問題になっていますが、サッカーのみならず、スポーツから学ぶものも大きいと思います。頭と体を働かしながらルールを守ったり、それぞれの個性を發揮しながらもチームプレーをする大切さを学んだりすることで、初めて、みんなで楽しく遊ぶことができると思います。

これからも夕方サッカーを通じて、色々と子ども達に伝えていきたいと思います。皆さん応援よろしく願いいたします。



フリースタイルケア

特別指導員

新倉季

私は、非常勤職員として遊びを中心にケアに取り組み、3年になります。

私の特技であるバスケットボールをケアの手法として活用しています。

これまでにバスケットボールクリニックを開催したり、夏祭りやクリスマス会では、バスケットボールの新しい分野である「フリースタイルバスケットボール」に挑戦し、子どもたちと一緒に作り上げた技を披露させていただきました。

子どもたちとともに一つの目標に向かって過ごしたことは貴重な体験でした。

これらの取り組みの成果は、職員からの理解のみならず、ボランティアとして様々なバスケットボールイベントに取り組まれている「Hoop In The Hood」(代表 浅井英明様)のスタッフの皆様からの多大なるご協力によるところが大きくなります。



今年度になり、子どもたちから「フリースタイルをやってみたい！」

との声が年齢性別を問わずに増え始め、積み上げてきたものが形になってきていると感じています。

今後もバスケットボールを通じて、子どもたちの可能性を引き出していきたいと考えております。



KAMAHO STYLE

[2009年度の思いで編] ケア担当 豊本洋平



今、あらためて『聖愛主義』を思う

F S W 村岡薫

この広報紙「明日へ」の第1号発行は平成12年6月15日、前年8月29日の神奈川新聞『養護施設で体罰横行』の記事を発端とした県の改善指導から、まだ一年に満たない時期でした。以来10年余、「明日へ」のバックナンバーは当施設のホームページからご覧いただけますが、その記事の移り変わりにも激変の時代が思い起こされます。

今の鎌倉児童ホームの子どもたちの生活は伸びやかさが感じられるものです。

限られた職員数のなかでは不十分なことだらけですが、多くのボランティアさんのお力や、学校・地域の皆様方のご理解に支えられての今があります。

次年度より一部体制が変わり、更なるステップアップが図られます。

時代は流れ、体制や制度は変わってまいります。その節目ふしめに、子どもの養育に携わる個々人が、己が働きの原点に立ち返ることが大切なのだと思います。

鎌倉児童ホームの原点は、佐竹音次郎の基督教の精神に基づく聖愛主義です。

「他人の子をわが子の如く、保(やす)んじて育てる」、とても真似の出来ない創立者の大きな働きですが、今、目の前にある子どもたちにできる限りの心を尽くして育ていける『あたたかな』場であり続けたいと願います。



新版・聖愛一路
監修：高田 彰
発行：文芸社

今年度は3名が卒園いたします。

3月6日には卒園式が行われ、日頃、大変、お世話になっている方々に多数、ご列席いただきました。

卒園生はバンド演奏を通じ、次の目標への決意を新たにいたしました。



ボランティアさん大募集！

鎌倉児童ホームでは、定期的に来ていただけるボランティアさんを募集しております。「1対1の学習ボランティア」「清掃なども含む家事のボランティア」「子どもたちの日常生活に関わっていただく生活ボランティア」など様々な形でご協力いただきたく思います。

お問い合わせは鎌倉児童ホーム（電話：0467-22-0424 E-mail：kamakura@seionkai.or.jp）
担当：山神 まで